東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１２年1月６

イスラームにおける寛容

親愛なるムスリムの皆様。

イスラームにおける寛容は、人々に対し公正さ、愛情、慈しみ、いたわり、同情を持って振る舞うことです。私たちの教えは、他の宗教に属していたとしてもあらゆる人に対しよく振る舞い寛容をもって接することを命じています。なぜならイスラームは愛情、兄弟愛の教えであるからです。アッラーはこのことについて次のように命じられました。「あなたがかれらを優しくしたのは、アッラーの御恵みであった。あなたがもしも薄情で心が荒々しかったならば、かれらはあなたの周囲から離れ去ったであろう。だからかれら（の過失）を許し、かれらのために（アッラーの）御赦しを請いなさい。」（イムラーン家章第１５９節）

親愛なるムスリムの皆様。アッラーが人々に遣わされた預言者たちは、その生きた社会で大きな寛容さの模範を示しました。預言者ムーサーはファラオに真実を説きに行く際、傷つけるような言葉を使わず、優しい言葉で接しました。預言者ムハンマドもアブー・ジャフルを何度も訪ねる際、彼に対し傷つけるような言葉は用いませんでした。またターイフに行く途上で彼に石を投げ、迫害した人々に対して怒ったりされず、彼らが許され、導かれるためにドゥアーされたのでした。

私たちの父祖も預言者たちのように、自分たちに投石した人々にバラをさしだしてきました。預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「最も誉れある信仰は、人々に信頼を与える信仰である。最も誉れあるイスラームは、皆があなたの行動に安心していられることである。」

イスラームにおけるこういった出来事は私たちに次のことを示します。人々が導かれること、イスラームによって誉れを得ることは私たちの教えの第一の課題であるということです。なぜならイスラームの教えの特徴は創造主への敬意、被造物へのいたわりであるからです。

寛容と理解は、あらゆる悪事、不正が続けられることを見て見ぬふりをすることではありません。それは人が過ちや迷信を放棄し導きを得るようにと努力し対策を講じることです。それは人々が迷信に惑わされるままにしておくこと、結果として神の罰を受けることになることに目をつぶることであり、このようなやり方はクルアーンの論理とは相いれないものです。ここでの唯一の目的はその人々が導きを得ること、真実を見出すことへの助けとなることなのです。

親愛なるムスリムの皆様。この世界で幸福に、安らいで生きるための唯一の手段は寛容と愛情です。家族をはじめとし、隣人、職場の友達、信者である兄弟に寛容を持って接することは何よりもまず私たちを幸せにします。社会の平和、さらには世界の平和も寛容によって可能となるのです。だから皆、自分に課せられたことを果たしましょう。ユヌス・エムレがおっしゃったように、創造主ゆえに被造物に寛容に接しましょう。